

愛子小学校から豊ヶ丘小学校への質問と回答

質問内容	回答
<p>林に本来あった循環を取り戻すために、場所を決めて生態系の影響がないか探りながら伐採を行ったようですが、伐採を通して子どもたちに身につけさせたい力や気づいてもらいたいことはどのようなものか。また、木の伐採による成果と課題をお聞きしたいと思います。</p>	<p>&lt;目指す児童の姿&gt;            学校林に関する様々な活動を通して、学校林のよさや現在抱えている問題に気付き、問題解決に向けて他者と協同して、今、自分たちができることを考え、実行する児童</p> <p>&lt;学習事項&gt;            ○身近な自然の存在とそのよさ            ○学校林の保存、維持、再生を目指し、活動している人々の思い            ○学校の一員として学校林をよりよくする活動を続けようとする取組、態度</p> <p>&lt;伐採による成果&gt;            ○伐採することは、学校林の管理を始めることを宣言することであり、持続的な活動の始まりを意味する。「豊ヶ丘小学校林活用・再生プロジェクト」の始動こそが何よりの成果である。市の予算に依存する管理から、市グリーンライブセンターの専門家や市民ボランティアとともに学校林の持続可能性を追究し活動するネットワークの構築ができた。            ○伐倒した樹木を玉切りし、学校林の階段や遊歩道で活用するほか、拾い集めた枝をウッドチップに加工し斜面の滑り止めに再利用することができ、児童が循環について学ぶ機会となった。            ○伐採により日の光が届く明るい学校林になった実験ゾーンの植生の変化を経年観察していくことによる学びに大いに期待したい。キンラン・ギンランやタマノカンアオイ等々児童が予想しているものだけでなく、それ以外の植物との出会いも楽しみである。            ○「萌芽更新」の実際を間近に見ることができることにも大いに期待している。その一方で、萌芽更新が叶わない場合を想定し、実生から苗木を育て数年後に植樹する活動への期待も高まる。</p> <p>&lt;伐採による課題&gt;            ○100年構想の長期的な取組である。短期・中期・長期目標を修正しつつ活動を継続するための、ネットワーク作りに引き続き努める必要がある。            ○痛みの激しい大木や斜面地の大木の対応は、市民ボランティアでなく専門業者による対応が必要である。児童によるESDの取組み、市民との協働によるプロジェクト等について広く発信することにより、地域と産官学の連携を確立してまいりたい。</p>